

(別紙様式 8)

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)・短期滞在手術(ポリープ切除術) 説明書・同意書

治療計画

- ・肛門から内視鏡を入れて大腸粘膜を観察するものです。癌・潰瘍・ポリープ・炎症などの有無や、病気の程度を調べます。
- ・摘除すべき大腸ポリープが見つかる可能性があり、比較的小さければ苦痛なくその場で内視鏡的に摘除する治療も可能です。ポリープの大きさにより高周波電流の通電を伴うことがあります。
- ・検査を行うため、前処置が必要です。下剤や腸管洗浄剤を内服して頂きます。
- ・検査の流れについては、別紙説明文書をご参照ください。

リスクのご説明

検査のリスク：

1. 下剤内服による腹痛やまれに腸閉塞・穿孔が起こることがあります。(偶発症数 0.0005%、死亡例数 0.000017%) *
 2. 所見のあった部位は診断のため組織を採取(生検)することがあります。
組織採取に伴ってまれに出血や穿孔(穴があくこと)などの合併症を起こすことがあります。
また麻酔剤や注射によるトラブルが発生する可能性もあります。
内視鏡検査に伴う偶発症(麻酔薬や前投薬に伴うトラブル・出血・穿孔・ショックなど)の発生頻度は、偶発症数 0.011%、死亡例数 0.00034%*です。万が一、合併症が起きた場合には最善の処置・治療が受けられる様に手配いたします。入院や緊急の処置・手術が必要になることもあります。
 3. 腸の緊張をとる鎮痙剤や苦痛を和らげるための鎮静剤を注射することがあります。
検査終了後まぶしくて目の焦点があわなかったり、眠気を催したりすることがあります。
- ※ 事故を起こす恐れがありますので、自動車、バイク、自転車の運転は絶対におやめください。

(*日本消化器内視鏡学会第6回全国調査：過去5年間の全国集計による)

ポリープ切除術のリスク：

- ・切除術の主な合併症は出血と腸管穿孔(穴が開くこと)です。
 - ・出血は 80~100 件に1件の割合で、穿孔はまれですが、合併症が起こった場合には緊急手術が必要になることがあります。ポリープの大きさ等で、切除できない場合もあります。
 - ・抗血栓薬・抗凝固薬を服用中の方は休薬できない場合、当院では治療はできないため他院へ紹介となります。(*自己判断での休薬は絶対におやめください)
 - ・ポリープ切除術の決断が直ぐにはつけられない方は、今回は検査のみで、後日じっくりと考えてから決めて頂いて結構です。
- ※ 切除術を行った場合、合併症を防ぐために、10日間は飲酒・出張・旅行を控えて下さい。

以上、ご説明に納得された方は下記に御署名の上、検査前に受付にご提出ください。

同意書

私は消化管内視鏡検査を受けるにあたり、検査の方法・内容・必要性を理解し、これに伴う危険性についても了解しました。その上で、下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)を受けることを希望いたします。

・短期滞在手術(ポリープ切除術)については、

- 十分に理解した(10日間の生活制限が出来る)上で、手術を受けることに同意します。
- 検査(生検含む)のみで、手術の希望は致しません。

年 月 日 ご署名 (続柄)

★検査内容および日程★ 年 月 日に検査を行います。



あさがお内視鏡・訪問クリニック (主治医氏名) 柳下 淳